

南信州地域資料センターで『伊那青年』の復刻の打合せ中、その中心人物のひとり近藤政寛が話題になったので、村沢武夫著『近藤家と政寛翁』（昭和24年発行）を再読した。この本は政寛翁の喜寿・神社本庁表彰・歌碑建設記念として出版された書物。また近藤政寛氏は七久里神社（現主・政彰氏）の神官として知られる人だが、文人としても知られ、富士山頂への「鎮國之山」の建立（明治31年）や、赤石登山で初の動植物調査など枚挙できないほど活躍した人物。また「鯤堂鵬州・八万百塔の赤人・憑の里赤兵衛・山本の赤人・憑の里人・赤嶺」と号し、和歌や詩歌を多く詠んでいる。

華やかな実績にばかり目が行ってしまいが、詠まれた歌の中で風越山と題した九首をみて驚いた。なんと風越山で仏法僧の声を聴き詠っていたのだった。

私が昭和28年の夏、飯田高校生物班で「風越山の仏法僧の声を録音し鳳来寺山

詠っていたのだった。

## 風越山の仏法僧と近藤政寛の耳

原田 望

敗に終わっただけに、政寛翁の詠んだ歌で、昔から風越山には仏法僧がいたことを証明してくれたと感激した。

風越は、うらくはし山

夏くれば奥の宮居に 仏

法僧のなく

又もう一首

風越は、うらくはし山

奥宮に大蝙蝠の 群れて

飛ぶ山

夕暮れから飛びだす蝙蝠

を詠い、深夜に鳴く仏法僧

（コノハズク）を詠っている

のは翁が奥社で神官として

夜を明かしたことがわかる。

さらに驚いた一首は

風越はうらくはし山

郷宮の森神さびて三光鳥

のなく

郷宮とは里の白山社であるが、ここには三光鳥がい

たことがわかる。かつて飯田でも長久寺の裏庭ではサシコウチョウが営巣していたし、月日星ホイホイホイと鳴き、鳳凰のような長い尾をなびかせて優雅に舞う姿が伊那谷のあちこちで見られた。

私が西中へ通っている頃

にはここ白山社では三光鳥

の記憶はない。

風越山の九首すべてが

「風越は うらくはし山」で

始まっている。「うらくはし」とは万葉集に出てくる古語

で「心にしみて美しい」「え

もいえず美しい」という意

で翁が朝夕、山本から風越

山を眺め心から愛し畏敬し

ていた山であったことがわ

かる。

観察記録ではないので詠

んだ日時は記されていない

が翁が活躍した明治三十年

代から大正初期であること

はわかる。

啼く、妻恋ふるらし水乞鳥

ハ 水乞鳥とはアカシヨウビ

ンのことで、かつては七久

里神社の脇の沢も鬱蒼と茂

った藪があり自然豊かな情

景があったことが思い浮か

ばれる。

姿の仏法僧は天龍村小学

校の生徒達の巣箱架けで増

えて来ているが、声の仏法

僧コノハズクは昭和28年

以降聞いていない。アカシ

ヨウビンも少なくなり三光

鳥も見られなくなつて久し

い。

本書の歌からも伊那谷の

変化が伺えた。



村沢武夫著『近藤家と政寛翁』と、謹呈の葉